

# 東名病院だより Vol. 13

東名病院ホームページアドレス・メールアドレス  
http://www.med-junseikai.or.jp/tomei/index.html  
e-mail tomei-hosp@med-junseikai.or.jp

第48号  
2013.1月発行

東名病院発行／〒480-1153愛知県長久手市作田一丁目1110  
TEL (0561) 62-7511 (代) FAX (0561) 62-2773



長島市 なばなの里

皆様明けましておめでとうございます。平成25年が始まりました。平成となり、既に四半世紀へ入りました。年賀の言葉が用意されなければいけないのでしょうか。しかし国内だけで数百万人の死者と推測される太平洋戦争の敗戦から、僅か19年を経てアジアで初めてのオリンピックを成功させ、東名神の高速自動車道や東海道新幹線の開通など、この国は目覚ましい発展をしました。比較してこの25年間日本は昭和天皇の大喪の礼に奏楽された「哀の極」の葬送曲に象徴されたように、国として衰微、衰弱を辿っていると思えてなりません。何事も盛者必衰の理とは承知していますが、高齢化、少子化などは早くから予測されていた国の容と思います。官僚や政治家の優秀な人達が出来ただけの対策をした結果として、国民は受け入れざるを得ないのでしょうか？国家資産のパイの大きさは伸びない今、「論争としての医療」から「論争としての医療経営」へ矮小化して欲しくないと願っています。

今年の冬は、ことさら寒く感じています。実際、平成24年12月の名古屋の平均気温は5.3℃で平年より-1.7℃とかなり低温の気候なのです。私は幼い時、豊橋市で育ちましたが多分今よりも寒く、雪だるまを造って喜んでいた記憶が残っています。その頃私の人格や心根を、主に誰が形創ろうとしていたのかなと、ふと考えることがあります。

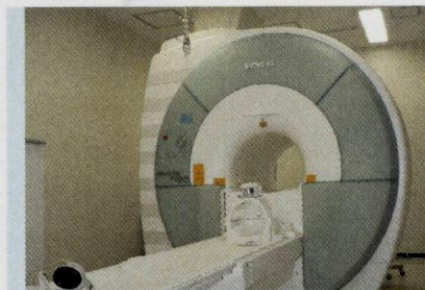
「雪だるま 目鼻貰ひし 方を向く」(浅井 柿条)

院長 大塚光二郎

# 新機種シーメンス社製 1.5T MRIの導入について

診療放射線技師 内藤 勇樹

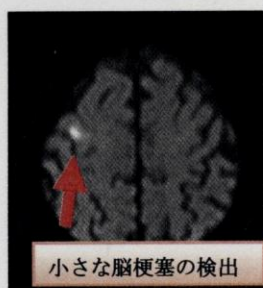
当院では、平成 24 年 12 月より、シーメンス社製 1.5T MRI 装置を導入致しました。以前のフィリップス社製 1.0T MRI 装置よりも、磁場強度が高くなり、撮像時間の短縮と高精細な画像を撮像可能となりました。また、病変の組織性状や新たな撮像方法により、病変検出感度が高くなりました。今後も病気の早期発見・早期治療に繋げられるよう技師一同、努力していきたいと考えています。



## 《フィリップス社製 1.0T 旧 MRI と新機種シーメンス社製 1.5T MRI の大きな違い》

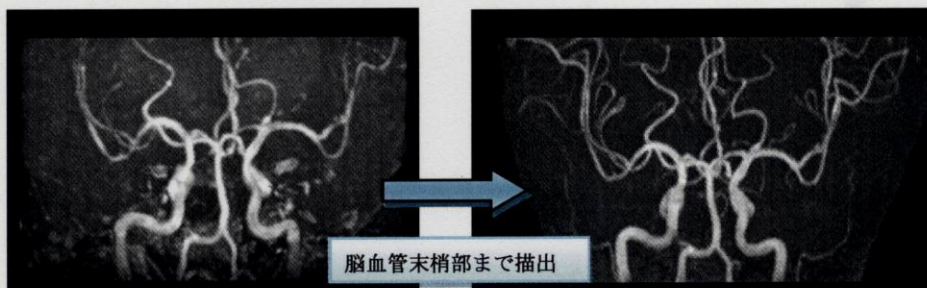
磁場強度が高くなる事は、画質の向上・撮像時間の短縮に寄与します。以前の MRI 装置の約 1.5 倍の磁場強度となりましたので、解剖学的構造の詳細評価や病変の検出感度が高くなりました。特に、MRA（血管撮影）は、血管の末梢領域の描出が改善され、血管の狭窄・閉塞病変や血管奇形等を明瞭に描出できるようになり、また、撮像時間の短縮により、腹部領域（肝臓・胆のう・膵臓；MRCP：膵胆管撮影など）の撮像においては、呼吸の影響が少ない画像を得る事が可能になりました。以前の MR 画像と比較しますと、画像のコントラスト・分解能の違いが良く分かります。（下画像：フィリップス 1.0T MRI と新規シーメンス 1.5T MRI 装置の画質の違い）

頭部拡散強調画像（急性期脳梗塞）



新機種シーメンス 1.5T MRI

頭部 MRA（頭部血管撮影）



フィリップス 1.0T MRI

新機種シーメンス 1.5T MRI

腰椎 MR 画像（椎間板ヘルニア）



フィリップス 1.0T MRI

新機種シーメンス 1.5T MRI

MRCP（膵胆管撮影）



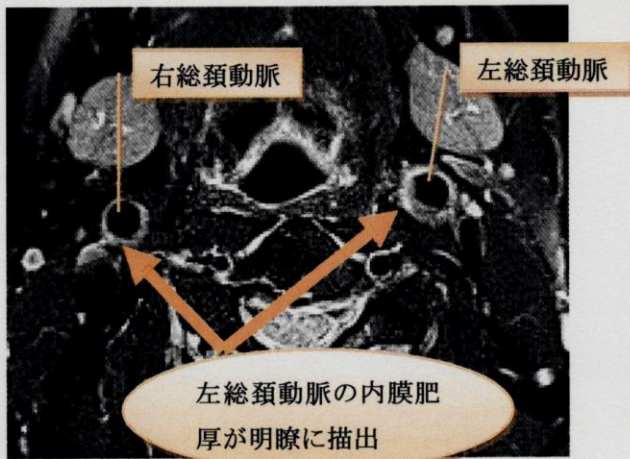
フィリップス 1.0T MRI

新機種シーメンス 1.5T MRI

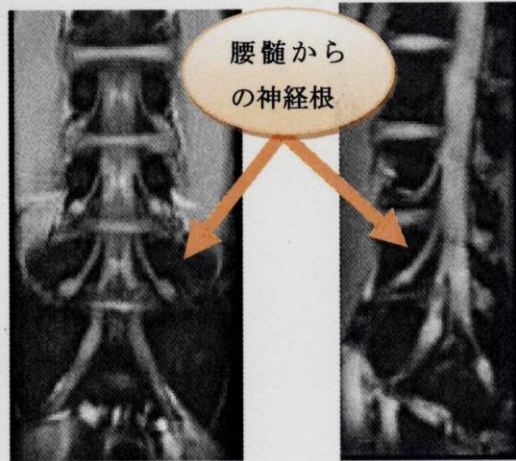
新機種シーメンス 1.5T MRI：腹部・膝関節・足関節 MR 画像



《新機種シーメンス 1.5T MRI で撮像可能となった画像》



頸動脈プラークイメージ



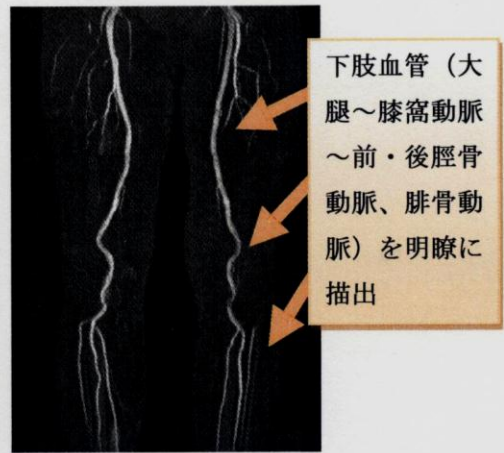
脊髄神経根（腰髄）



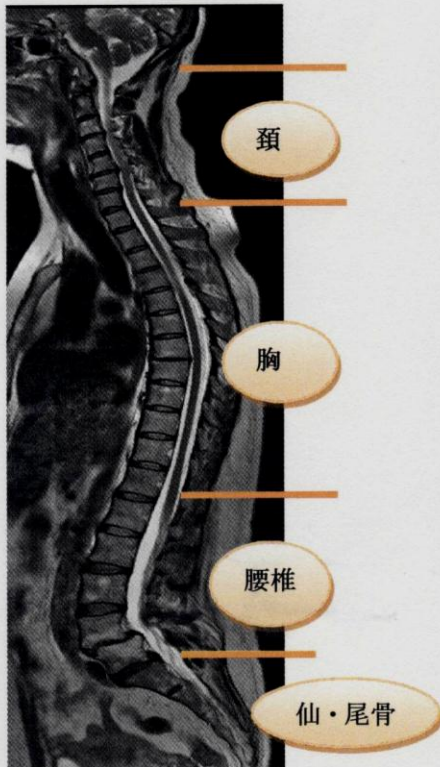
門脈



腎動脈



下肢血管



全脊椎・脊髄

シーメンス社製 1.5T MRI により、病変の検出のみならず、「病気を発症させないようにする」＝「予防医学」の視点で、MR 画像を捉える事ができると考えています。左上画像（頸動脈プラークイメージ）は、将来、虚血を引き起こす危険性のある動脈硬化性病変（血管内膜肥厚やプラーク：粥腫など）の程度を描出しています。血管内膜肥厚が進行し、血管狭窄・閉塞を来すと、脳・頸動脈の場合→脳梗塞、門脈の場合→肝硬変等による門脈圧亢進症、腎動脈の場合→腎性高血圧、下肢血管の場合→閉塞性動脈硬化症（糖尿病主体）の原因となります。

また、全脊椎・脊髄（頸椎～胸椎～腰椎～仙・尾骨）を約 10 分で撮像可能となりました。手足の痛み・痺れの原因が、どの脊髄レベルで引き起こされているのかを短時間に撮像できるようになりました。

MR 検査は、器質的疾患の有無のために行われる検査と捉えがちですが、将来的に「病気の発症時期」を推察できる可能性があるのではないかと感じています。導入された新機種 MRI 装置により、「予防」を含めた画像診断に繋がられるよう、医師と連携しながら、新たな撮像方法を提案したいと考えています。

\*MRI 検査に関する質問・疑問等は、放射線科までお願いします。

# イオントフォレーシス

臨床検査技師 鈴木 雅美

昨年12月より、当院外来診療にて、多汗症患者様を対象とした、イオントフォレーシス治療を開始しました。

イオントフォレーシス療法とは多汗症の部位を水道水に浸し、そこに微弱な電流を流し汗腺からの汗の生成を抑える治療法です。

厚生労働省による多汗症の治療のガイドラインでも推奨されており、欧米ではごく一般的な治療法です。

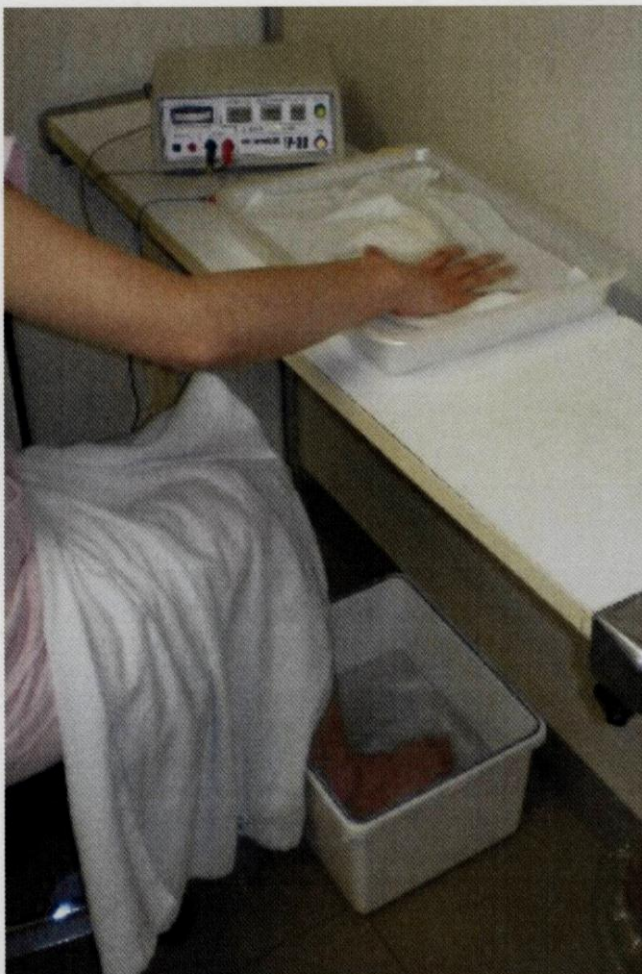
副作用はほとんどなく、一週間に一度、約30分間通電を行い、平均8回程治療を行うと約8割の方に効果がみられると言われています。

但し、治療を続ければ症状は軽快しますが、治療を中止すると再発してしまいます。

治療可能な部位は、手のひら、足の裏です。

保険の適用もあります。

1回の治療は3割負担の方で約600円です。（診察料は別になります）



←イオントフォレーシスによる治療風景